



<チェーンソーの手入れ>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	自然観察会・レポ	9
Monthly Repo ならやま	2	10年目を迎えて	10
里山の今（景観・パト）	3	カキの病害虫-1	11
里山の今（虫だより・花だより）	4	ならやま投句箱	12
こどもゆめくらぶ里山体験イベント・レポ	5	行事案内-1	13
佐保台小学校稲刈り・レポ	6	行事案内-2・奈良学クイズ	14
平城宮跡草刈り・レポ	7	幹事会報告・編集後記	15
朝日親と子の自然環境教室・レポ	8		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

一番しっとりと落ち着きがあり、通り過ぎるのがいとおしい季節。ならやまの木々も色づき、精一杯頑張った実りを終えて厳しい冬に向けての準備を整えつつある。9月の後半から10月にかけて行事が多くて大変だったが、それぞれに参加者の笑顔という宝をもらって終えることができた。スタッフの皆さんが力を合わせたおかげだ。お互いに感謝したい。11月はイベントもなく、色づくならやまでゆったりと気持ちのいい時間を過ごしたいものだ。

また一人ならやまの大切な宝を失った。ならやまの自然を愛し、特に注力されて整備された農園は私たちの財産として守り続けなければと思う。萱野勉さまのご冥福をお祈りいたします。

高齢者集団にとって、仲間を失うことはとてもつらいことではあるが、ともに意義ある人生をならやまで過ごせたことに感謝したい。そのためにも、仲間に対する尊敬と感謝の気持ちを忘れずに力を合わせることでできる集団であり続けたい。

11月の活動特記事項

11月2日(木)：協働活動(アダプトプログラム)

11月23日(木)：ならやま自然観察会

11月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(No.5部分皆伐)、薪割り、下草刈り 榎木用コナラの伐倒 ユート：アカマツの森でのマツの間伐と整備
エコファーム	豌豆類種まき、葉物野菜・大根の施肥、玉ねぎ植え付け 野菜跡地の整備 鹿ネット整備、ハウス設置準備
景観	整備：ベースキャンプ周辺、彩の森、佐保自然の森の草刈り整備 ミツバチ巣箱点検整備 ビオ：池・水路の景観保全・整備 花：野草園、自転車道路周辺の花壇整備、ビオラ・パンジー植栽
パトロール	ならやま自然観察会、1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り ベースキャンプ前溝蓋補修
果樹	旧鹿よけネットの撤去、鹿よけフェンス際の防草シート張り、果樹の剪定

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

9月21日(木)曇り 65名+近大生3名

23日(土)のこどもゆめくらぶイベントの打ち合せ。

里山Gは里山西側の枯枝処理、丸太材加工、薪割り。エコGは水田の整備、大根などの種まき、レタス植付け。景観Gはイベント用真竹林の整備、緑陰広場などの草刈り、蜜蜂巣箱の整備とスズメバチの駆除。花班はアジサイ周辺の草引き。ビオ班は近大生と定期調査、草刈り。パトロールGは観察路3コースのパトロール、丸太階段補修。果樹Gは栗の収穫と販売と除草。

**9月23日(土)曇り 親子58名+12名
+当スタッフ24名**

こどもゆめくらぶのイベント実施。

9月28日(木)晴 66名

景観G、他16名で平城宮跡草刈りを行う。月末の各倉庫内備品の確認をお願いする。

里山Gは倒木の玉切りと搬出、薪割り。エコGは稲架掛け用竹の準備と種まきの準備、ピーマンなどの収穫。花班はアジサイ園周辺の草取り。ビオ班はビオエリア北側泥上げと水路整備など。パトロールGは観察路1コースのパトロール、A地区草刈り、備品点検。果樹Gはコンニャク芋の掘出し、倉庫整理と除草、スダチなどの収穫。

10月5日(木)曇り 76名+28名



涼しくなって参加者も増えた。協働活動としてエコG中心に佐保台小学校5年

生24名+4名で稲刈りと稲架掛けを行う。

里山GはNo.5区画の整備、倒木の玉切りと搬出、片付け、薪割り。エコGは佐保台小学校の稲刈り、大根、白菜などの間引き、さつま芋の除草と試し掘り。景観Gは稲刈りの手伝いと、彩の森の草刈り、草刈り機の整備研修。花班はアジサイ園周辺の草取り。ビオ班はビオエリア北側の湿地の泥上げと水路の整備。パトロールGは観察路2コースのパトロール、観察路のロープ張り、笹刈り、ミーティング。果樹Gはスダチと栗の収穫、古い鹿除けネットの整理。

10月12日(木) 秋晴れ 64名

15日の朝日親と子のイベント、16日の自然観察会、17日ののらの会、28日の芋ほりイベント、11月の例会(近江八幡)の参加者を募集。

里山GはNo.5区画の部分皆伐、イベント準備。エコGは15日の朝日親と子の稲刈りの準備、玉葱などの種播き。景観Gはイベント用地域の整備など。花班は野草園周辺の草引き。ビオ班はビオエリアの草刈り、水路の点検など。パトロールGは観察路の笹刈り、観察路3コースのパトロール。果樹Gは栗など収穫、古い鹿除けネットの除去。



**10月15日(日)曇り、親子89名+11名
+当会員22名**

朝日親と子の自然環境教室イベント実施。

10月19日(木)秋晴れ 68名+近大生3名

28日の芋ほりイベントの会員家族の参加について連絡。

里山Gは自然林観察路倒木処理、遊器具の撤去。エコGは次週の脱穀の準備、芋掘りイベントの準備。景観Gは佐保自然の森除草。花班は山野草園除草。ビオ班は近大生と定期調査。パトロールGは観察路1コースパトロール、自然林倒木処理。果樹Gは栗の収穫、古い鹿除けネットの除去。

景観グループ

～ 草引き三昧 ～

國方 まり子

ガード下をくぐると、そこは緑の楽園。車で数分の所に住んでいるのに、入会するまで知らなかった“ならやま”は、今では私の憩いの場所の一つです。

奈良・人と自然の会の景観グループ傘下にある花班に所属し、はや1年8か月。他のグループも皆、魅力的でしたが、花班に決めたきっかけは、お花は好きでしたが、ただただ人手不足とお聞きし草引きで良ければ手伝えるかなと思ったからです。

入会以来、草引きに明け暮れ、引いても引いても、きりが無く、頑張っ引いたのに数週間後には元の木阿弥状態に啞然とする事もしばしば。それでも苦にならず楽しく作業を続けられ、なおかつ活動日が待ち遠しくさえ感じられるのは、ひとえにこちらの会員の皆さまの暖かい励ましと、訪れる人々にお花で癒し、心地良さを届けたいと思っているメンバーと一緒にだからです。それに四季折々のめずらしい草花や昆虫にもたくさん出合える楽しみもあります。

作業は草引きの他に肥料やり、土作り、柵作りに剪定等々山ほどあります。草引きの経験しか無い私は毎回チーフ宝田さんの指示指導の下、諸先輩方を見様見真似で何とかやっています。あいにくメンバーは5名と少なく、何をしても時間は足りず、毎回焦りまくり、心残りのまま終了時間となります。

こんな時間の繰り返しですが、諦めずメンバーと共に出来る限り、すっきりとした景観になる様にこれからも草引き三昧の日々を続けて行きたいと思っています。



パトロールグループ

～ 観察路 ～

山本 美智子

朝礼と体操を終えた後、リーダーの小島さんのもとの活動作業と連絡事項を確認し合って作業開始です。観察路のパトロール、補修点検、草や笹刈り、樹木の名札づくり、希少植物の保護、等々。

活動の中心となるのが観察路のパトロールと、その補修、点検です。急阪や段差のある箇所は階段を、足場の悪い箇所には、手摺り代わりにロープを張り安全に配慮。階段の用材は、ならやまで調達した丸太と孟宗竹を割って作った杭。丸太1本と杭4本が階段一段分です。(この階段を丸太階段と呼んでいる)

修理に向かう時、手分けしてこの用材を運び揚げます。この用材は豊富に手に入る反面、朽ち易く、常に点検して修理に当たります。すべて、人力です。現在、3コースの観察路があり1日1コースを巡回するので3週目で全コースを一巡することになります。ならやまの里山林を観察するための路だから、多くの人に利用されることもなく、ましてや、発展や生産とも無縁で、歩く人が途絶えればあっという間に元に還ってしまう。自然の力は、凄まじい。手に負えなくなった笹刈りや、倒木の処理など、里山グループの力をお借りすることも度々。

特にカシナガの被害木が倒れて、観察路やその近隣を塞ぐことが多くなってきている。還ろうとする里山の自然へ、微力ながら、継続して働きかけることが、明日へ繋がっていくと思いながら作業し観察路を歩いている。作業を終えた達成感、四季の移ろいを味わい、鳥の声に癒され、背を押されます。

ただいま「観察路」は、これからの紅葉へ、冬支度を始めています。丸太階段や、ロープの手摺りを片手に歩いてみませんか。きっと心に響く発見がありますよ。3つの観察路が皆さまのお越しを待っています。

虫だより



里山の今

花だより

～晩秋に元気なタテハチョウ～

菊川 年明

晩秋になると昆虫はめっきり姿を消しますが晩秋でも元気に飛び回っているタテハチョウ3種をご紹介します。いずれも中型のチョウで、夏型と秋型があります。ご紹介するのは秋型で、成虫で越冬します。越冬中は物陰でじっとしています。

*キタテハ

晩秋のタテハチョウの中でも最もよく目にするチョウです。秋型の翅の色は表側の地色は少し黒ずんだ黄色、裏側は赤褐色です。翅を立てて枯葉の上に止まると見えにくくなります。このチョウの夏型の翅の色は秋型にくらべると表裏ともに淡い色合いです。



*アカタテハ

翅の表側は赤っぽい部分が多く、赤以外の部分は黒と白の小さな斑紋です。熟して落ちた柿の実に止まって果汁を吸っていることがあります。



*ルリタテハ

翅の表側は一見黒く見えるほど濃い藍色の地に鮮やかな瑠璃色の帯模様があります。裏側は地味な灰褐色の模様で保護色です。翅を立てて木の幹に止まっていると気付きにくいですが、越冬中でも、先の2種も含めて、風のない穏やかな日には日溜まりで翅を拡げて日光浴をしていることがあります。また、本種も先のアカタテハも夏型と秋型の形態・色彩差は少ないです。



～フジバカマとアサギマダラ～

桜木 晴代

ウマノスズクサにジャコウアゲハが舞う春のならやま。蛹がウマノスズクサにぶら下がっている光景も独特である。

ギフチョウはカタクリやカンアオイを好み、アオスジアゲハはクスノキの周りを飛ぶ。

秋のならやまで見られると思われる蝶はアサギマダラである。アサギマダラの翅は美しく、フジバカマの蜜を吸う姿は写真の被写体として人気である。以前、自然教室で訪れた地で、フジバカマにアサギマダラが群れ飛んでいる光景を見た事がある。アサギマダラは旅する蝶ともいわれ、海を越えて台湾にまで渡るといふ。

蝶は偏食で、限られた植物のみを好むようだ。果たして特定の植物に惹きつけられるのは何故なのか？ どうやらその植物の発する匂いや蜜や成分にあるらしい。

ジャコウアゲハはウマノスズクサの毒性のあるアリストロキア酸を、アサギマダラはフジバカマのアルカロイドを体内に取り込み天敵から身を守る目的があるという。フジバカマにはツマグロヒョウモンやキタテハなども来る。アオスジアゲハはクスノキの樟脳の匂いを好む。

*フジバカマ

- ・環境庁のレッドリストで準絶滅危惧種に指定
- ・キク科、ヒヨドリバナ属、多年草
- ・学名：Eupatorium japonicum
- ・効能：利尿・血圧降下・解熱・神経痛・皮膚の痒み

*秋の七草

オミナエシ・(ススキ) オバナ・キキョウ・ナデシコ・フジバカマ・クズ・ハギ (オスキナフクハ)

ならやまでは、今、ハギ・フジバカマ・ススキの花を見る事ができる。フジバカマは西池近くで咲いている。是非立ち寄ってみてください。

こどもゆめくらぶ

里山体験イベント・レポ

小島 武雄

9月23日(土)

子どもたちとその保護者、お世話の方70名来場、当会スタッフ24名の94名での開催。

当日は曇天でしたが、昨日までの厳しい暑さが消え、朝の涼しい風が吹いていました。ただ、午後から晴天が予想され気温も30度越えとの判断で、急遽予定になかったテントを1張り設置する事に、皆さまの協力で何とか準備完了。予定通りに、「こどもゆめくらぶ」の一行が到着しました。最初に朝の歌「小さい秋」の合唱。10時50分開催、千載会長の「ようこそならやま里山体験の話」からイベント始まりです。



11時より、全員で稲田へ。鈴木さんの「お米の話」稲の伝来から栽培の流れなど。ビオトープ池に移動、田中さんのビオの成り立ちとペタキンの話のあと、手に水網を持って池の生物掬いです。夢中になって池に胸まで落ちる女の子も!



次は、エコの皆さんに迎えられ、緑陰広場横の農園でピーマンとナスの収穫です。子どもは手の小さなハサミを動かし、嬉しそうに摘み取ります。収穫経験のない大人も参加です。ここで、午前の予定は終了、12時50分に昼食の豚汁が振る舞われました。

吉村さんたちが、早朝より準備された黒米のおにぎりも、大喜びで完食。テントのおかげで日陰で全員食事ができました。展示のジュズダマに見入る子や、取ったザリガニに興味津々。

午後は12時40分から、2つのグループに分かれ、竹林25分と薪割り15分体験です。



ここで、全員ヘルメット着用。竹林では少人数に分かれて、それぞれの竹を根元から切り倒します。ノコギリで切り離れた竹を、子ども3人で力を合わせて横倒しに引っ張ります。力余って竹の下に転がる子もたくさんいました。

薪割りは、重量機械を使います。危険を伴いますので、丸太の持ち込みから、薪割り、薪棚



へ運び出しなどの流れに沿って、全員が体験しました。機械を動かす時の真剣な小さな目が輝きます。

次に里山林へ入ります。木漏れ日の観察路を一行になって進んで行きます。途中に椎茸栽培地の榎木組を見上げ、アスレチック広場へ到着。いつも通り、思いっきり遊んでくれました。部分皆伐地へ移動し、植樹や樹木林の再生の話や、ドングリの育成の話聞き、14時40分予定通りBCへ到着しました。

最後に千載会長から「里山のお話」は、用意されたたくさんの写真を見ながら、みんなしっ



かり聞いてくれました。お土産は、収穫野菜とジュズダマブレスレット、鹿の折り紙を手にみんなニコニコ満足そう。最後に「オタマジャクシはカエルのこ」の合唱で終了。

最後に「オタマジャクシはカエルのこ」の合唱で終了。



今回のイベントは、とてもとても盛りだくさんで、準備が大変でした。スタッフの皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございました。お疲れが、出ませんように。

(イベント担当 山上・三瀬・小島)

佐保台小学校稲刈り・レポ

佐竹 樹之

猛暑の日々が終わりを告げ、ようやく（いや急に）涼しくなったこの時期、6月に田植えした「さよむらさき」が頭（こうべ）を垂れ、収穫を待ちわびるかのようです。「ならやま」の活動地に着くと、入口で私たちを歓迎するかのように見える田んぼで今日、待望の「稲刈り」です。本番前に、鈴木顧問から会員スタッフに、あらましや注意点の説明がありました。今日の主役は「佐保台小学校5年生」です。校長先生を始め3人の先生方に引率され、24名の児童が到着しました。

千載会長が歓迎の挨拶をして、さらに5年生代表の挨拶がありました。田植えの後、この田んぼを見に来たか尋ねたところ、児童が一人居たのには、少々驚きました。次に、鈴木顧問がパネルを見せながら、作業のさまざまな注意点を説明し、児童は静かに耳を傾けていました。その後児童は、12名ずつの2班に分かれ、稲刈りをする田んぼに移動しました。

いよいよ、刈り取り本番です。まず12名が田んぼに入り横並びになり、一株ずつ鎌で刈っていきます。驚いたのは、説明を忘れたのか鎌を引かずにたたいている子、株元近くを握らずに、株の中程を持って苦戦する子、いろいろな



児童の動きがありました。続いて次の12名が6株単位で、麻ひもを使い束ねていきます。この時も、説明のように束ねることが出来ない子、

ひもの締め方が緩いのか、稲わらが運ぶ途中で、バラバラになってしまう子がいました。

そこで周りの会員スタッフが、実際にして見せてようやく理解している様子でした。練習無しのぶっつけ本番であれば、仕方ありません。次に、刈り終わった場所に会員スタッフが竹で稲架（はぎ、俗に馬と呼ぶ）を組み立て、そこに稲わらの束を、一つずつ半分に等分し掛けていきます。この時も、麻ひもで束ねた位置が稲の株元から離れ過ぎていて、稲架からおちるものがありました。これも会員スタッフが修正し3台の美しい稲架が完成しました。



稲架掛けが終わり、畝で2人の児童が互いに「自然っていいね」「そうやね」と話していました。今日の体験がきっかけになり、この自然環境の大切さを体感し、こうした活動に関心を持ち続けてもらえればと切に感じました。また、児童から「手作業は大変だったけど、人の手でやれたことは楽しかった」との感想を聞くことが出来たことも、大変有り難く思いました。また、「何日位干すのですか？」との問いに、鈴木顧問が「7日から10日位天日干しすると、ゆっくり乾燥させるので、旨味がぎゅっと詰まったお米になります」と答えていました。正に、収穫の喜びを皆で分かち合い、手間ひまをかけたお米を頂く幸せも、かけがえのないものだと感じました。秋の装いが深まる「ならやま」での、楽しく有意義な体験を、児童と共に味わうことが出来たこと、雨も降らず、参加者全員けが無く終えることが出来たことに、感謝感謝です。

平城宮跡草刈り・レポ

田中 善英

9月28日午前8時、ならやまベースキャン
プに、景観グループを中心に各グループから草
刈りの猛者が加わり、16名が集合した。



軽四輪トラック2
台にモア1台スパイ
ダーモア3台、刈払
機10台と関連装備
を積込み、乗用車4
台と共に8時30分

に出発した。目指すは平城宮跡の東側、東院庭
園の南に位置した田んぼ、面積は5000㎡。



9時、現場に到着。
軽四輪トラックか
ら機材を下ろして
草刈りの準備完了。
作業に取りかかる
前に全員で写真を
取った。天気は晴
れ、薄曇りで日差
しも弱く、草刈り
にはもってこいの
日になった。



「さあ、やるぞ」。

しかし16名が4カ所の田んぼに分かれて、作
業を開始したとたん、あっちこっちで、「アレ
レレ」となった。思惑通りに草が刈れない。夏
草をなめていたと言われればそれまでだが、草
の背丈は1.5mを越えていて、おまけに夏の暑
さにも負けず、元気に太く育っていた。モア、



スパダーモアは何
とか頑張っている
が、ナイロンカッ
ター付きの刈払機
では刃が立たない。
また、チップソー

付きの刈払機でも、伸びた草を途中で切ってか
ら、もう一回根元を切る“必殺2段切り”をし
ないと倒れない。それでも、ならやまの猛者が
奮闘を続け、徐々に草が倒れていく。



日差しは弱い
が、気温は高い。
熱中症の心配を
しながら、声を
掛け合って30
分毎に休憩をと
りながら草と格闘する。11時過ぎになって、午
前中の作業を終了。昼食タイムとなった。

全員で線路横のスペースに移動して昼食を
食べながらの作戦会議となった。「まだ、目処
付かない」、「午後の作業の状態を見ながら、最
悪、一日では終わらないのでは」という弱気な
発言も出た。しかし、ご飯を食べて、休憩を取
り、徐々に体力、気力も戻ってきた。



誰かが「さあ
やるぞ」という
かけ声をかけ
ると全員が動き
出す。そうなれば
話は早い。昼食

タイムもそこそこに各自の持ち場に戻って草と
の格闘を再開した。全員の気力が通じたのか、
草が倒れて、見通しがずいぶん良くなってきた。
「アレ、何とかかなりそう」と思い始めると、も
う大丈夫。当初の目標であった14時にはほぼ
草刈りが終わった。



そして、「やっ
たぜ」という満足
感とともに、なら
やまに戻る。なん
とか、お天気にも
恵まれ、無事に予

定通り“平城宮跡草刈り秋の陣”を終えること
ができました。

本当にお疲れさまでした。

朝日親と子の自然環境教室・レポ

藤原 勲

朝日親と子の自然環境教室のイベントが子ども38人、保護者48人、シニアのスタッフ12人、ならやまのスタッフ22人計120人が集い10月15日10時30分から開催された。主催者のシニア自然大学校代表の澤井さん、奈良・人と自然の会の千載会長の挨拶に続き、イベント担当山本隆造さんの安全注意事項の説明があった。集合写真を撮った頃には昨夜来の雨も上がり素晴らしい秋晴れとなり子どもたちはこの後のイベントに目をキラキラ輝かせていました。里山体験は4班に分かれ、薪割り・椎茸栽培・皆伐地区・アカマツ地域等を見学し、小木伐採とアスレチックをしました。



薪割りでは太い丸太が機械を使って簡単に割れる体験をして、小木伐採では直径3cm位の木を鋸で切って、枝切り鋏で枝を切るという作業です。アスレチックでは子どもた



ちは木登り、ブランコ、綱渡り、ハンモックへ一直線。保護者の方にもミラーウオークをやってみませんかと勧め、木と雲と空だけの中を歩きフワフワと不思議な感覚になったと言っておられました。

13時からお待ちかねの昼食。賄い担当提供の豚汁、サヨムラサキ入りのおにぎり、焼き芋に舌つづみを打って談笑が広がっていました。

気になっていた田んぼも少し乾いてきたようで、マムシの追い出し作業後14時から稲刈り体験。鈴木さんから稲の刈り方等の説明があり稲刈りのスタート。子どもの小さな手では一束を纏めて持つことも難しく、一気に刈れず木を切るようにギコギコ。あちこちで親子助け合いながら刈っている微笑ましい光景が見られました。稲の結束は主に保護者の方がされて、結束された稲束を子どもたちが両手で抱え、隣の田んぼに立てられている稲架に皆で掛けていきました。



15時過ぎに活動は終わりベースキャンプで千載会長が里山の話をしている頃から大粒の雨が降り出し、テントの中や賄いのテントの中まで人で埋まり閉会の行事が進められました。30分位で雨も上がり、女性スタッフ手作りの鹿の折り紙、数珠玉のブレスレットのお土産を手にして、皆さん怪我や事故も無く16時頃帰路につかれました。スタッフの皆さま本当にお疲れさまでした。

自然観察会・レポ

奈良県宮馬見丘陵公園 (見る、味わう、
触る、聴く、考える、驚く)

小島 武雄

10月16日
(月) さわやかな秋晴れの朝9時30分近鉄田原本線「池部駅」に17名が集まりました。



久しぶりの、田代貢先生を迎えての自然観察会で

す。先生からの、いつもの資料が配布されました。今回もA3用紙にびっしりと書き込まれています。

曲がりくねったA-J往路道、K-Q復路道のイラスト横に並んで、12種類の葉っぱや種、実、オシベ、メシベなどの姿や断面の精密図が描かれていて、今日どんなお話が聞けるかわくわくしてきます。挨拶もそこそこに、すぐそばの植え込みからいきなり始まりました。

①ベゴニア(シュウカイドウ科)の花には蜜を出すのと出さないのがある! ②シンジュ(神樹、ニワウルシ)の葉には、蜜を出す箇所があるのを、ルーペで確認。③イヌビワの折った茎から湧き出すミルク。④ハナミズキの赤い実を取って、先端が4つに分かれている確認。⑤イロハモミジの種を2つに割って飛ぶ違いをやって見る。⑥ソヨゴの葉っぱを、クシャクシャ味見。⑦コナラの匂いにつられてスズメバチが集まってくる事。⑧シラカシとアラカシの葉の見分け方の基本ルールを教えてもらう。⑨樹木の葉っぱは環境に左右され、時に形が変わる

ので、観察のポイントにはならない。⑩ブタナの茎がたんぽぽと違う枝の分かれかたをしているなど、この後23種類くらいまで、まだまだたくさんあります。とても書き切れません。

味見はエノキの実、エゴノキの実、サルビアの蜜。触ってみるは、ロウバイの葉のザラザラ、トチノキの冬芽のネバネバの驚き。途中



先生から「これ、この話前にしたでしょう」途中先生から、「何回もここは、話していますよ! 「覚えていますか?」と、やんわりお叱りと、あきれ顔も。私たちの記憶がぼやけているのか、ほんとにぼやけているのか判断がつきません。先生の忍耐力に感謝です。そのあと、カタツムリがトンネルのコンクリートの天井にへばり付いている理由、蜘蛛の糸は引っ付くのと付かないのがある、樹木プレート裏側は、イモリなどの隠れ家で、秘密の観察のポイントである事など。

おまけは、松ぼっくり傘の流れ様が植物の論理性を作っている1.1.2.3.5.8.13.21...フィボナッチ数???この数列を音階にした、素敵な音楽を聞かせてくださいました。

いつもながら、情報量の多さに、私の用意してきたメモ用紙が全部無くなってしまいました。昼食時間を30分に切り上げて時間オーバーで、午後3時15分にはスタートした池部駅に到着。とてもとてもたくさん、歩き、学び、楽しみました、お疲れさまでした。

10年目を迎えて 私のならやま活動

内河 洋文

長年お付き合い頂いている方からのお誘いで入会し、早や10年。毎週木曜日の「ならやま活動」が一番楽そうな草刈りを選択した。現在の景観グループ整備班で草刈り(冬季は竹林整備)一筋に活動、自分の手で思うように雑草を刈る爽快さは、楽しく充実していた。

活動日以外では、歴史クラブに入った。奈良県に不案内の私にとって、色々有名な史跡に連れて行って頂き、これがきっかけで、古代史の世界に首を突っ込み、現在も色々学んでいる。

片や会員の中でゴルフ仲間ができ、12年間封印していたゴルフを再開、この二つが私の年金生活に彩りを添えている。この会に入っていなかったら、今頃どんな生活をしているのか、長年の友に感謝・感謝。

私が入会した頃のならやまBC周りは、草刈りが行き届き、畑には人工物(害獣対策としてのネットの設置は仕方ないが)もなく素敵な里山の風景だった。この素敵な景観を守るべく、景観グループでは(バイオ班や花班も)草刈り・草抜き・草むしりを毎週実施している。

我々整備班(自称草刈り隊)は里山保全の為、西はトンネル付近から西池周辺、田の畦道、畑の通路周辺、彩の森、実りの森、佐保自然の森と全ての草刈りを一手に引き受けて来た。数年前に果樹グループが出来、草刈り隊から数名が移籍、同時に数名の方が退会などで徐々に人手不足となり、彩の森の以前畑だった場所は雑草の天国。またBCに入ってくるトンネルを抜けた三角地帯も、丈の高い雑草が生い茂っている。エコグループの野菜畑周辺も雑草だらけとなってしまう、エコグループには大変な迷惑をかけてしまった。

これら反省も込めて、我々草刈り隊の人手不足に対応すべく、自走式草刈り機の導入及び、各グループにそれぞれの持ち場周辺の草刈りを

お願いすることとなり、各グループに刈払機を配備して頂いたと聞いている。里山グループの毎週の下草刈りのお陰で、森の中も大変美しくなった。果樹グループの実りの森全体の草刈り、パトロールグループの草刈りと一応の成果は出て来たようだが、我々草刈り隊の人手不足に加え、高齢に因る実稼働時間の減少などの要因により、今夏も草刈りが追い付かず、梅畑やエコグループの野菜畑周辺等々は雑草がはびこり、まるで人の手が入っていないかのような状況になってしまった。

年齢を重ねる毎に草刈りもきつくなって来た。草刈りは孤独との戦いでもある。作業中の仲間との会話は当然できない。作業場所もバラバラな為集まって休憩する事も減り、チームの一体感が薄れていく事が心配である。

8月の第一週の協働作業の日に、田の草取りが行われた。田に入ってびっくり、物凄い大量の水草がはびこっていた。根が強くなかなか引っっこ抜けなく、悪戦苦闘した。このような状態になる前に、少なくとも2回程度田の除草をしておけば、これ程苦勞をしなくてもと思った。

団塊世代は70歳をとうに過ぎ、企業は定年延長などで人手不足を解消しようとしている。今後は当会に入会してくる60代の若い人は限られると思う。各グループともこれから更に高齢化が進むので、現状の会員の体力に見合った活動とせざるを得ないだろう。

環境保全の為、維持・継続しなければいけない活動、森を守る為の里山活動、BC周辺や自転車道路の景観を守る為の草刈りなど、一度立ち止まって、「守るべき、継続すべき」活動範囲や活動内容を見直してはどうだろう。

足し算ばかりではなく、引き算も時には必要と思うが、如何。各グループの皆さんと力を合わせ、もう一度あの美しかった景観を取り戻したいと思う。



カキの病害虫—1

お先にいただきます!

木村 裕

カキノキを庭や畑に植えている方も多いことでしょう。果実がたくさん成る年もあれば、不作でがっかりする年もありますね。

カキの実が落ちる原因は、カキの木が少し実をつけすぎた、これでは自分にとっては負担が大き過ぎると反省したとき、果実を振るい落とすのが生理落下ですが、もう一つの原因は果実を狙う害虫の活躍です。

【カキノヘタムシガ(カキミガ)】

カキのもっとも重要な害虫です。果実のへたの近くから蛾の幼虫が孔をあけて中に食い込み、内部を食い荒らします。そのため、果皮は褐色になって中空となり、やがて落下します。虫は果実内部に潜んでいるので防除はなかなか難しいです。被害果を見つけたときは早めに切り取って処分しましょう。



【カメムシ類】

収穫した果実の表面が黒くポコポコと凹んでいます。それゆえ見た目が非常に悪くなり、商品価値が大幅に下がります。自家用なら問題はないかと思いますが、味の点については保証しかねます。

原因はカメムシのおばさんやおじさんがお先に味見をしたせいです。まだ熟していない果実に口ばしを刺し込んで汁を吸ったため、その

部分は凹んでスポンジ状になります。また、小さな果実では早々に落下します。主犯は緑色のチャバネアオカメムシですが、暗褐色のクサギカメムシ、アオクサカメムシなどのカメムシも共犯です。幼虫はいろいろな樹で生育し、カキの実が少し大きくなった頃を狙って成虫がやってきます。



果実被害とチャバネアオカメムシ

【クロトンアザミウマ】

2016年にならやまのベースキャンプ横のカキで発生した害虫です。色づいた果皮がうす黒く汚れました。初めて見る症状のため、何か病気が発生したものかと思って調べたところ、葉の裏に非常に小さな白っぽい虫が見つかりました。肉眼ではちょっと見つけにくいかも。細長い虫で、口吻で葉や果皮を傷つけてしみ出す汁をすするので、その傷跡が黒っぽい汚れとなって残った次第です。



アザミウマはあまり馴染みのない虫ですが、ナスやキュウリの大害虫です。そのため農家の方は防除対策に頭を痛めています。

新ならやま投句箱

俳句

秋の山路馴染みの茸こんには 菊川 年明
 屋久島のススキに何を想い草 古川 祐司
 秋深しネットで碁打ちいと楽し 羽尻 嵩
 温暖化負けじと秋告ぐ曼殊沙華 清原 加代子
 月を背に連れ行く二人の影長く 千載 輝重
 近江きてなんと素晴らし自然かな 福田 美伸
 刈り取りし田に六列の稲架重し 藤原 勲
 庭の空ゆつくり泳ぐ秋明菊 小島 武雄
 緑なす苜田の上をナツアカネ 坂東 久平
 静かさや当尾の秋の仏たち 八木 順一
 吊し柿野猿てぐすね里の軒 阿部 和生
 我光と色づく葉つば秋 蘭 たけなわ 國方 まり子
 稲刈や子等の奮闘大豊作 山本 美智子
 はしやぎたて子らの稲刈り畦残る 鈴木 末一
 こつちだよここにいろよと金木犀 高間 祥子
 新蕎麦の香に包まれて打つ笑顔 豊田 浩代



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしく願ひいたします。

短歌

毎朝の神と仏に手を合わす

昨日の無事と今日の安穩

内河 洋文

コロナ禍で匂いなのは悲しいが

悪臭も消えそれもいいかも

戸田 博子

親も子も初体験で稲を刈る

へっぴり腰に緩い結束

富江 文雄

いつの日か夏に背を向け秋を待つ

忍びて寄りぬ毬栗笑ふ いぐり

谷川 雅邦

川柳

高級魚中国買わねば俺が買ふ

トラ吉

風の音に驚く前に風邪を惹き

柳司

小さい秋見つけられずに冬が来た

季節オンチ

天高く物価も高い秋の暮れ

かよちゃん

十八年待った虎きちアレに泣く

フランカー

ピンポンより早い猫の気配消し

たけちゃん

世の中にだましのたねぞ尽きるまじ

うさぎのぼんた

温暖化彼岸花をも狂わせる

のぶ

活動日顔見知り増え声弾む

草引き名人

行事案内 part 1



秋の自然観察会

「ならやまの紅葉と木の実、冬支度」

小島 武雄

11月度自然教室 11月23日(木)午後1時頃から1時間半程

スタート：ならやまBCから4グループに分かれて歩きます。

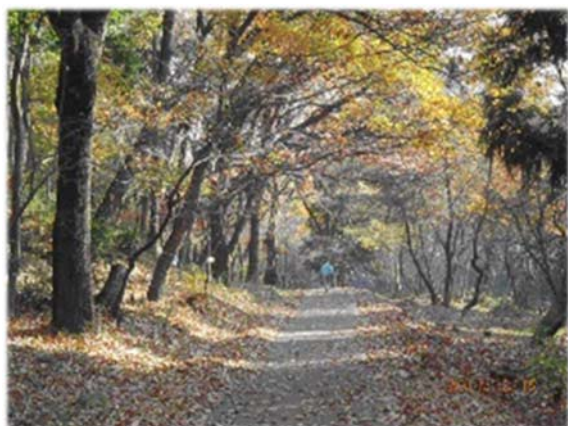


紅葉の季節です！！

ならやまの身近な自然、季節の変化に気づいてみましょう。

今回は、パトロールGが自然教室を応援していきます。

BCから、緑陰広場、梅林、四季の丘、A地区を周りながら、紅葉、木の実、その他を観察して歩きます。いつも何気なく目にしている里山ですが、秋から冬の訪れを観ていきましょう。午後のひと時を一緒に楽しく過ごせたら嬉しいです。山道には入りませんので、気楽にご参加ください。



12月月例研修会のご案内
平群千光寺・役行者と修験の道と平群の里へ

富井 忠雄

晩秋の紅葉を見ながら散策いたします。

倭健命(やまとたけるのみこと)が「たたみこも平群の山」と歌に詠んだように4世紀前半には平群という地名は存在していました。また5~7世紀に古代豪族平群氏の本拠地として栄えた歴史ある土地です。

今回は修験道の開祖、役行者が開いた千光寺、奈良時代の長屋王夫婦の墓、聖徳太子が建立したとされる長薬寺などを巡ります。

記

1. 日時：12月5日(火)
2. 集合：近鉄生駒線東山駅9時50分
*10時07分のバスに乗ります
3. 持物：弁当、飲物、雨具、ハイキング靴
4. 会費：各自交通費、拝観料など

行程

近鉄東山駅コミュニティバス 10:07 発-鳴川 10:16 着-清滝石仏群-千光寺-昼食-生駒山口神社-金勝寺-紀氏神社-吉備内親王墓-長屋王墓-長薬寺-近鉄平群駅行程約9km
申込先：富井忠雄

世話人：田中、戸田、富井

◆前日午後7時前 NHK 天気予報で奈良北部地方60%以上の場合は中止いたします。



千光寺

行事案内 part 2

芋煮会のご案内

エコファーム

暑くて長い夏が過ぎ、やっと秋が来ました。今年も昨年同様に芋煮会を開きます。

今年の里芋は、昨年から続いています JA 愛媛ブランド‘伊予美人’とエコグループが長く育ててきた‘ならやま美人’(旧甚五右エ門)の2種を使います。

共に柔らかくてねっとりした舌触りの美味しい芋です。試し掘りでは良好な出来でした。

諸物価高騰の折りですが、美味しい肉も買い求めて最善の芋煮を提供すべくはりきっています。奮ってご参加ください。



記

- 日時:12月7日(木)12時から
(雨天の場合は14日(木)に順延)
- 今年採れた黒米の入ったおにぎりを進呈します。(一個)
足らぬ人はお弁当を持参ください。



新そば打ち実演のご案内

そば文化クラブ担当 太田 和則

久しぶりに蕎麦文化クラブも芋煮会の催事に割り込み参加を致します。上達した全員の腕前をお見せしたいところですが、今回は、そばクラブ講師の田邊、師範代の田中さんのデモ打ちをご披露いたします。勧誘も兼ねております。

食べて頂く蕎麦は水、竈、人の都合でご提供できません。打ち立てのそば2束300gを500円で販売いたします。



コロナ禍を経て“やっと安心の蕎麦打ち”ができるようになりました。新しいメンバーも加わり

活気ある研修会を毎月行っています。

奈良学クイズ

【問1】次の「ゆるキャラ」で、奈良県内市町村のものは、①から④のいずれですか。市町村名と愛称をお答えください。

①



②



③



④



【問2】次の各問いにお答えください。



- 写真の建造物が所蔵されている寺院名をお答えください。
- この寺院には、国宝に指定されている建造物が3つあります。それらをお答えください。
- 次の文章の空欄に適語を入れてください。
この寺院は日本最初の本格的伽藍である()寺が平城遷都にともなって、()氏寺から官大寺に性格を変え新築移転された。

【応募要領】

締切日：11月5日(日)

記念品：?!?!?!(お楽しみ)

応募方法：Mail

2023年10月度 幹事会報告

開催日：9月26日

- I. はじめに
 - ・9/23 こどもゆめくらぶ里山体験を振り返って(感想・反省・意見等)
- II. 会計・総務部より
 - ・会員動向:入退会無し 149名(家族15名)
 - ・会計:収支報告あり
- III. 活動・行事関係
 - ・10/23 佐保川小学習支援
 - ・12/21 午後 干支の工作
 - *ならやまプロジェクト関係
 - ・9/28 平城宮跡の草刈り 16名参加 5000㎡
 - ・10/5 佐保台小 稲刈り、会員 協働活動
 - ・10/5 草刈機の整備、点検を行う
 - ・10/15 朝日親と子の自然環境教室
 - ・10/26 会員による稲脱穀
 - ・10/28 芋掘りイベント
佐保台小児童と会員家族
 - *イベント関係
 - ・朝日親と子・・・総勢130名の予想混雑対策
 - ・芋掘りイベント 午前中の開催
- IV. 企画、助成金事業案件
 - ・エコG ビニールハウスの設置
 - ・奈良県地域貢献サポート基金追加募集
地域の子ども・若者の健全育成事業に応募
12月～3月の活動 椎茸イベント メイン
- V 特定議題
 - ・新春交流会・新春講演会について次回幹事会
 - ・年間活動基本計画 10/20までに各G提出
- VI. 広報関係
 - ・ネイチャーなら11月号編成内容説明
- VII. 報告・連絡事項、その他
 - ・月例研修会・自然教室(10月号会報誌に記載)
 - ・新しい里山里海共創プロジェクトへの協力
 - ・10月は味噌汁の提供なし

以上



暑い暑いと言っていたら、急に秋、もはや晩秋の気配。

暑い時にはビール、そしてつまみは冷や奴にミョウガと鰹節に麺汁かけて。数年前に我家の裏庭にミョウガを植えた。いつも、丁度ビールが美味しい時期に採れていたのに、今年は全く出てこず。どうしたの? と言いながら、ミョウガ抜きて冷や奴。ところが、10月になってから、急にミョウガが出てきて、花が咲き出した。これはどうしたのか。ミョウガも大急ぎで季節の辻褄を合わせているのか。早速、冷や奴を買ってきて、ミョウガを刻んだ。寒くてもいい。ミョウガの心意気に感謝し、ミョウガをのせた冷や奴をつまみにビールを飲む。これで、夏のミョウガを楽しめた。大満足。

12月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 12/7 協働活動日
- 12/7 芋煮会・そば祭り 予備日 12/14
- 12/21 干支作り 12/28 迎春準備
- *月例研修会 12/5 平群 千光寺他

会員動向(敬称略)	
<入会者>	10/19 小山 和夫 小山 佳子
<退会者>	9/30 吉川 公子 柴田 秀男 中川 瑛雄 東 典子
	10/15 大山 博美

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：里山林内整備作業後に、使用したセンサーを手入れしています。